

いつも笑顔で

<今月の聖句> 「人はパンだけで生きるものではない」  
(ルカによる福音書4章3～4節)

「エンジョイ・ベースボール」は流行語大賞になるでしょうか。  
今夏の甲子園優勝劇は、野球とは別の意味でも、ヒントが多くありました。  
例えば、  
スポーツ刈りにこだわらず、髪型は自由  
「監督」「先生」とは呼ばず、「〇〇さん」と呼ぶ（同じ目線で対話する）  
練習メニューは、生徒が自分たちで考える  
試合中も、今何をすべきか自分で考えて行う  
自分で考え自分で行うから、すべてが楽しい（エンジョイ！）  
だから、ミスをしても、笑顔が絶えない、等々。  
これら「エンジョイ…」を40年以上前から実践してきたそうです。

ちなみに、「つくし保育園」も昔から「エンジョイ」を実践しています。  
例えば  
園長や保育士を「先生」と呼ばず、「〇〇さん」と呼ぶ（同じ目線）。  
皆が同じことをするのではなく、一人ひとりの興味や関心に応じて遊ぶ。  
自分の「やってみたい」に合わせ、心と体を存分に使って自由に遊ぶ。  
好きな遊びを深めることを通じ、友だちとも深く関わり、十分満足する。  
うまくいかないことも、自分から楽しんでいるから、笑顔が絶えない。  
むしろ失敗したときこそ、工夫や協力を通じ、新しい見方がひらける。  
自分のままでいることを受け入れられた子は、他者の自由も大切にする。  
つつい書き過ぎましたが、これらはほんの一例です。

近隣小学校を訪問した際、生活担当の先生が近づいてこられました。  
「つくしの園長さんですか。お話したかったです」と切り出され  
「つくしを卒園した〇〇君は、とても心がやさしく、困っている友だちを  
そばでそっと見守り、必要なときにそっと手を貸してくれるんです。  
おかげで本当によいクラスになっています。そのことを伝えたかった」  
それを聞いて、こちらも心が暖かくなり、感謝に包まれました。  
きっと彼は卒園した今も日々を「エンジョイ」しているに違いありません。  
(つくし保育園園長 つだかすお)